

講義名	対)生活構造論			
担当教員	森脇 丈子			
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

主題と概要
<p>私たちの生活は経済と深く結びついています。私たちの生活に影響を与える経済的要因にはどのようなものがあるか、生活に大きく影響する事象(出来事)はどのようにして引き起こされてくるか、企業や政府と個人はどのようなかかわりを持っているのか、生活環境や雇用条件はどのようにつくりだされ、変化しているのかについて、学んでいきます。社会の変化が激しい時代に生きる私たちにとって、経済的事象を理解し、それらについての自分の考えを持つようになるために必要な知識や他者との関係の築き方などについて、学び考えていきます。</p> <p>新聞記事・DVDなどを適宜用いながら講義をおこないます。</p> <p>対面授業では、受講生との議論をおこないます(レスポ活用)。</p>

到達目標
<p>【対面授業】この科目は、「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためです。「オンデマンド型」ではありませんので、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加してください。なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染疑または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、Ryuka Portalを通じてオンライン授業のURLとて課題を知らせます。入院等によりオンライン授業にも参加できない場合には、教務課を通じて個別に対応を相談します。</p> <p>1. 私たちの生活と経済活動との結びつきについて理解できるようになる。 2. 家族構成や就業構造や生活時間の変化について、また、その変化が現代社会にどういった影響をもたらしているのかについて理解できるようになる。 3. 働くことのかかわりで、経済の仕組みや法があり方や知っておくべき知識について学ぶことができる。 4. 働き方や雇用条件と生活との関係について学び、よりよい暮らしのために自分の考えを持つことができるようになる。</p>
提出課題
<p>授業の後半に課題を出します。課題は、その日の授業内容に関連するものです。レスポで提出してもらいます。</p> <p>授業中に質問を多く出します。自分の考えをまとめて発言してください(レスポ活用)。</p>

提出課題
<p>授業の後半に課題を出します。課題は、その日の授業内容に関連するものです。レスポで提出してもらいます。</p> <p>授業中に質問を多く出します。自分の考えをまとめて発言してください(レスポ活用)。</p>
課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック
<p>授業開始時に、前回提出済みの「提出課題」に関するコメントをします。</p>

評価の基準
<p>1. 課題 ... 点数 = 42点(3点/回×14回)</p> <p>2. 定期試験 ... 点数 = 58点</p> <p>「課題(42点)」と「定期試験(58点)」の合計点で、評価をします。</p> <p>合計60点以上が、合格です。59点以下は、不合格です。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>対面授業では、学生に質問を出し、発言を求めます(レスポ活用)。</p> <p>新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や企業活動などに関する情報を日々収集しておいてください。</p> <p>第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解したうえで、受講してください。</p> <p>教室での通常授業では、授業中の私語、教室への勝手な出入りを禁止します。スマホは、教員の指示がある場合に使用してください。</p> <p>関連科目として、「経済学入門」「消費文化論」「消費者問題論」「NPO論」の受講を勧めます。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>対面授業では、学生に質問を出し、発言を求めます(レスポ活用)。</p> <p>新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や企業活動などに関する情報を日々収集しておいてください。</p> <p>第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解したうえで、受講してください。</p> <p>教室での通常授業では、授業中の私語、教室への勝手な出入りを禁止します。スマホは、教員の指示がある場合に使用してください。</p> <p>関連科目として、「経済学入門」「消費文化論」「消費者問題論」「NPO論」の受講を勧めます。</p>

教科書
<p>・「使用しない」。</p>

プリント資料及び参考文献
<p>教室で行う対面授業では、出席者に、プリント、新聞記事を適宜配布します。オンライン授業では、Ryuka Portalの「講義連絡」の機能を使って、プリント等を提供します。</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松沢裕作(2018)『生きづらい明治社会 不安と競争の時代』、岩波ジュニア新書 ・白川裕子・希見輝平(2012)『女子と経済』20代からの「貧・貧・貧」講座、中公新書ラクレ。 ・今野晴貴・板倉昇平(2014)『ブラック企業VSモンスター消費者』、ホブラ社。 ・小林英希(2018)『ルポ 中年フリーター 「働けない働き盛り」の貧困』NHK出版新書

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1 家計、家族、収入、資金 2 企業、政府、省計 3 世帯構造、収支構造、世帯の収入・支出 4 戦後の日本経済(1) 高度経済成長期まで 5 戦後の日本経済(2) 低成長期以降 6 経済成長と公害 7 日本人の就業構造の変化(1) 戦後の経済と職種の変化 8 日本人の就業構造の変化(2) 「日本型雇用システム」の変容 9 日本人の就業構造の変化(3) 「新・日本的経営」 10 働き方(1) 労働時間、雇用形態 11 働き方(2) 働き方のルール、労働関連法 12 働き方(3) 最低賃金、ブラック企業、ブラックアルバイト 13 年金 14 社会保障 「大きな政府」「小さな政府」 15 最終試験

授業形態(アクティブ・ラーニング)								
<table border="1"> <tr> <td>ア:PBL(課題解決型学習)</td> <td>イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</td> </tr> <tr> <td>ウ:ディスカッション、ディベート</td> <td>エ:グループワーク</td> </tr> <tr> <td>オ:プレゼンテーション</td> <td>カ:実習、フィールドワーク</td> </tr> <tr> <td>キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)</td> <td></td> </tr> </table>	ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク	オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク	キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	
ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク							
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク							
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)								

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>・毎回の講義終了時に、次の範囲とそれに関連する予習項目を提示します。新聞やニュースなどを使って情報収集に努め、次週の授業での質問により多く答えられるよう準備してください(作業時間:2時間程度)</p> <p>・その日の授業で扱った内容を基にして、次週の授業開始時に復習問題を提示します。授業で使用したプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的事例で授業内容をより深く理解できるように努めてください(作業時間:2時間程度)</p>

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
<p>社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会共創・産学連携、インターンシップなどで現実社会との視点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身に付け、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>レスポを活用し、授業中の意見交換、課題の提出をしてもらいます。</p>

実務経験の有無及び活用

備考
<p>第1回目の授業ガイダンスをしっかりと聞いて、授業の進め方・評価方法を理解してください。</p> <p>教室での対面授業では、教員の指示があったときのみ、スマホを使用してください。教室への勝手な出入りは禁止します。授業態度の悪い人には退室を求めることがあります。</p>